

調布に残されたすばらしい自然

5/26 神代農場内と周辺の自然と暮らしを知る「そぞろ歩き」案内 環境モニター

都立農業高校神代農場は国分寺崖線の中でも谷戸と呼ばれる谷間に位置している。学校の敷地であるため立ち入りは制限されているが今回は学校側のご配慮により特別に見学することができた。案内役は小池弘志先生。以下は先生のお話から。

神代農場は谷戸地形のため水に恵まれ、近くの青渭神社の名も豊富な水による池があったことから名づけられたと思われる。30年ほど前までは豊かな湧き水があったが様々な周辺工事のためか、その後湧き水は激減した。だが今でも石垣の間から染み出す水によって東京ではめずらしいワサビ田を残している。また、以前は深大寺の参詣客を当てにこの辺りでニジマスの養殖がされていた(東京では一番早く養殖を始めた所)ことから、今でも敷地内の池で養殖をしている。

深大寺地区の湧水は逆川へ、農場の湧水は佐須用水へと、水源から野川へ流れ込むまで2km程も距離があるため、サワガニの生息など、この地域一帯は生物の多様性に恵まれてきた。

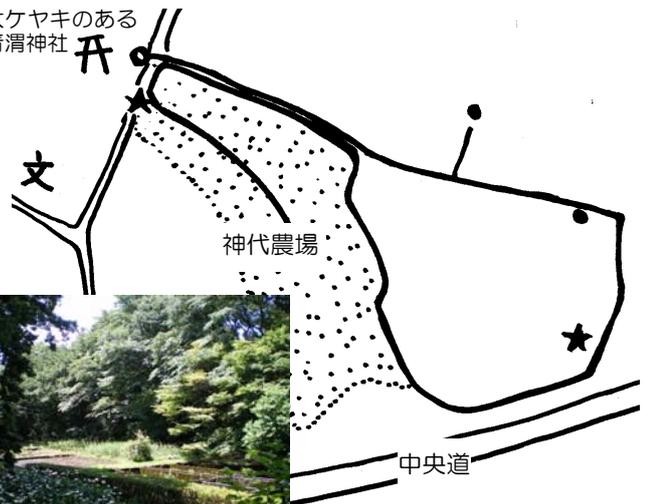
農場の奥には両側を落葉樹に囲まれた田んぼがあり、6月の始めには農業高校の生徒が田植えに来る。カルガモ農法(カモが水をかくことによって常に水がかき混ぜられ雑草が生えにくい)に役立てるカモも捕獲されていた。落葉樹の林では「春植物」と呼ばれる早春に一齐に開花するカタクリやニリンソウなどが楽しめる。また今は使われていないが、戦争中に開発された(煙が少ない)移動式炭焼き窯も残されていた。(報告 環境モニター 鍛冶)

小池先生のわかりやすい説明で改めてこの自然の良さを感じました。



すばらしい所!
「調布市民の財産ですね」

大ケヤキのある
青渭神社



両側が落葉樹に囲まれた田んぼ。隣の池にはカワセミが来る



わさび田奥の石垣とワサビ 野川の菜の花が下流から上流へと増えたためスジグロシロチョウなどが農場へ飛来しワサビも食べてしまう。奥にある石垣は、上部はコンクリでかためられているが下部は水が染み出すように隙間のあいた石積みになっている。

調布の自然 昆虫編 オオシオカラトンボ

夏が近づくにつれて、次第にトンボの仲間も数を増してきました。調布市内にも、市内を流れる野川や深大寺をはじめとする水辺を中心に、様々なトンボを見ることが出来ます。

オオシオカラトンボも市内では比較的多く見ることが出来るトンボの一種です。本種の成虫は5~9月頃に現れて、その姿はシオカラトンボによく似ていますが、本種の方が雄の青味が強く、羽根の付け根が黒い点で区別できます。

本種は主に池や水田、流れの緩やかな水路等に生息している種類で、いわゆる「止水性トンボ」の仲間ですが、特に成虫はやや薄暗い小水域を好む性質が強く、明るく広々とした水域を好むシオカラトンボとは明確にすみ分けています。また、幼虫(ヤゴ)は、リターと呼ばれる植物性沈

積物の陰に潜んだり、柔らかい泥の中に浅く潜って生活しています。

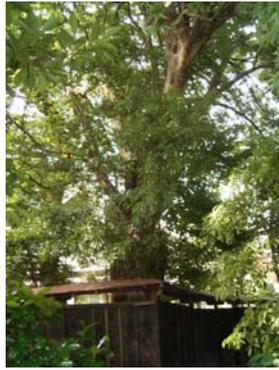
生物の中にはいろいろな環境に適應して生育・生息している種もありますが、その一方で、特定の環境に強く結びついている種も多く見られます。特に特定の環境に強く結びついている種は、生育・生息を確認することで、確認場所の概ねの環境を把握することが出来るため、「環境指標種」として、環境把握に用いることができます。オオシオカラトンボも「木陰で植物の生い茂る浅い水域環境の存在」を示す指標とされますので、本種を見かけた際には、ぜひ周りにこのような環境が無いのか、探してみてください。(石川和宏)



富澤昭二さんに聞く絵堂のあたりのこと

5/26 そぞろ歩き 続き

神代農場を後にし、東側に位置する富澤邸を訪ねた。幹廻り3mもある大きなカゴの木が目当て。ここは国分寺崖線の上(海拔72m)に辺り、かつては調布駅まで見通せたという。また反対に大きなコウヤマキがあったときは駅からその木が見えたという。(台風で折れたときに伐採してしまった)カゴノキは鹿のまだら模様のような特異な木肌が美しく、300年ほど経つのではないかと思われる立派な古木だが、大量の落ち葉には油分が多く堆肥になりにくい上、常緑樹なので冬の日当たりが悪いなど、保存の苦労も多いようだ。



カゴノキ

この辺りは「絵堂」と呼ばれる地域だが、鎮守様は池の上神社であること、絵堂39軒の農家が全て東向きに建っていたのは台風によって屋根が飛ばされないようにするためだった、などのお話も伺った。

富澤家は元禄の頃、多摩連光寺から分家したと思われるが、昭二さんは、深大寺用水を造成した名主 富澤松之助の後えいでもある。その用水の西堀の跡が今も庭先に残っていた。川幅1mほどの両岸には崩れ止めにセキショウが植えられており、当時は毎年3月に川さらいをしたので生物は少なかったが、それでも夏にはホタルが舞ったという。村役場があったのもここだったそうだ。

その後は富澤重信邸の門にある1対のヒイラギを外からながめ、(魔除けのため、新築の家には大抵植えられた)絵堂139名の共同墓地も見せていただいた。その他、昭二氏には子供の頃の周辺のような絵堂の歴史など色々なエピソードをお話し頂き、最後は青淵神社の大ケヤキで再度小池先生のお話を聞き、解散した。



富澤 昭二氏

- ・富澤さんの貴重なお話が聞けて良かった。
- ・ぜひゆっくりと2時間位お話を聞きたい。
- ・カゴノキや深大寺周辺の歴史のお話が興味深かった

～あなたから始まる、
地球の未来～

調布市 環境フェア が開催されました

6月2日(日) 市役所前広場で例年のように環境に関わる活動をしている市民グループや企業などが集まり環境フェアが開催されました。



ちょうふ環境市民懇談会のブースでは雑木林保全に因んで丸太切りのタイムトライアルを開催。子供からお年寄りまで楽しく参加してもらえたようです。



各グループの日頃の活動のようすや雑木林の植物の写真を展示しました。

◆ 入間・樹林の会

6/17(日) 晴れ

駐車場隣地との境界上のエゴノキとシラカシが伐採された現場を最初に確認しました。市民放送局からの取材があり活動の様子と参加の呼びかけをしました。樹林地内を案内しながら広葉樹が葉を広げ結構薄暗いことに気づきました。マテバシイの広場ではますますハタバコ・アザミ・ヤブミョウガが勢力を拡大しています。

笹刈りの作業中、樹林地横の坂道の掃除を個人的に毎日されている方が声をかけてくださいました。NTTや樹林地から出る落ち葉は相当な量で大変なご苦労です。心ない人たちがごみや自宅の庭木の剪定枝等を不用意に棄てる時には注意をしているとの話に、自然との共生における住民エゴとモラルの問題は今後の大きな課題だと改めて感じました。

笹は、2度目の刈り取りのせいかわも葉も柔らかく「おいしそう」に見える作業も楽にすみました。



ナナフシ



ムラサキシキブ

花はドクダミ、アジサイ、ユキノシタ、ムラサキシキブと少ない時期です。今年はアジサイの花も少なく葉は大量発生した虫に喰われて葉柄だけ残っている無残な状況です。来月は方形柵調査・下草刈りの続きをする予定です。(安部)

◆ 田んぼの学校

たいへんよくできました。

この半月の間に、畔付け(くろつけ)、苗取り、田植えと一気にこなしてしまう忙しい週末が続きました。6月2日には苗取りと代掻きまで済ませて、田植えのスタンバイはOK。翌6月9日は朝から学校のみなさんと田植えの授業です。ひび割れた畦の補修などをしてもらっている間に水位を調整します。この数年ではひさしぶりに水が豊富で、最後の代掻きも念入りに行うことができました。

苗もよく育っています。本株は5葉が出て丈が二十数センチに伸び、分けつ(株別れのようなもの)が2つ進み、植え時になっていました。天気にも恵まれ雨にならず、むしろ日差しが弱く、本当にすべてベストコンディションです。

その田んぼにみんな横一列に



水のお話 佐須用水編①

「佐須用水の水は飲めますか」

「田んぼの学校」の授業中にこんな質問がありました「佐須用水の湧き水は飲めますか」。難しい質問ですが、自分なりに調べなおしてみたところ農業用水以外に飲料水として利用するには水量が足りず、水質調査も不十分です。



佐須用水の水源地点
(都立農業高校神代農場)

ご存知の通り佐須用水の水源地は、環境基本計画でモデル地域に定められた都立農業高校神代農場の敷地にあります。そこで測定された2003年度の9月と2月の水質調査の概要は、水温は年間を通してほぼ16℃、硬度は約74、全窒素は野川公園の湧き水より二倍近くあります。大腸菌は、確率的に2(個)/100ml以下。ごく少量で人体に害を及ぼす農薬や環境ホルモンなどの調査は不明です。湧き出たばかりはホトケドジョウが住めるくらい「きれいな水」ですが、下流はさまざまな水生生物が暮らしている場であり、ゴミなども捨てられていますので、当然いろいろな物が混じってしまいます。それらの廃棄物の中身は?・・・次号に続く。(こんどう)

◆◆◆ 石っこらむ 4 ◆◆◆

布田小学校長
寺木秀一先生の
連載コラムで

調布ではレアな多摩川の石灰岩

石灰岩は歯磨き粉、セメント、中和剤、砕石、飼料、石垣、スポーツ石灰、乾燥剤、石垣など私たちの生活に役立っている石です。



多摩川の上流にあたる奥多摩町には山全部が石灰岩という山があります。JRの青梅線や五日市線は初めは石灰岩を運び出すための線でした。その下流にあたる調布の河原では希にしか見つからないのはなぜでしょう。写真のような角の取れた、表面がつるっとした物が時々見つかります。風化しやすい柔らかい石灰石が調布の河原まで形を保ってやっとたどり着いたのです。(酸性の水に溶けやすい特性も影響します)

石灰岩は生物遺骸が化学的沈殿をおこして海底に堆積してできたものです。サンゴも石灰岩をつくる、貝や節足動物の成分が堆積することもあります。その成分がCaであることは酢やレモン汁を付けると泡が出るので分かります。

そのように積もった(16000年前ごろ!)海底が地殻変動をして奥多摩の山々をつくったという地球の歴史があります。

石灰石は石灰岩を鉱物資源と見たときの呼び方です。わが国で唯一、国内需要量を国内産でまかなうことのできる貴重な石ころでもあります。

並んで田植えの開始。苗の束を左手に持ち、横に張った縄に沿って、



30センチ間隔で植えていきます。一箇所3株程度、根に指をそえてそっと土に差込み、手を引き抜いたあと苗が浮かないように少し土を寄せます。一人が4、5列くらい受け持って後ずさりしながら植えていきます。自分が踏んだ土はでこぼこになってしまうので、手でならしてから下がる。これの繰り返しです。慣れないと腰が痛くなりますが、みなさんすぐにコツをつかんで、教えることは何もありません。作業は予定通り終了し、最後に農家の竹内さん(故)の言葉を伝えました「今年は100点満点だ」。どうもありがとう。

16日には田んぼにハウネンエビ

も出ました。気温が25度を超えれば稲の病気の心配も少なくなります。後は元気に育つように祈りながら、水の管理をします。次の授業は一番草(雑草取りや害虫駆除)と田んぼの生き物観察です。みなさんよろしくお願ひします。(田んぼの学校 こんどう)



たったひとすくいでハウネンエビ、ミジンコの仲間、ユスリカなどがとれた。

◆ カニ山の会

6/9(土) 10:00~12:00 曇り
参加者 12名+体験1名+子供2名

①樹林の上段西側の林床整備作業として、笹刈りシュロ抜き等を行った。
②案内板文案の確認をし、会員Yさん提供でアクリル板にすることにした。道具手入れ後、意見交換をした。・ヒメシャラやホウの木のの実生を発見。育

てて行きたい。・切れない鎌は、力があるので危険。傷みが激しい道具の買い替えを市に確認する。・秋になったら落ち葉かきをして草花の発芽を促したい。・野草園に花が多いためハチが東樹林に来ないこともあるが、林床に花が少ないからハチが来ない → ハチが少ないから実がならない → 実が成らないから花が増えない、という状態が続いている。対策を考えていきたい。・子どもたちと丸まった葉の中を観察。中に小さなオレンジ色の卵が産み付けられていた。カニ山の桑の実が食べ頃。試食。

今後、林床の花を増やす試みとして、一部のエリア(候補地:上段東側)で樹幹を開き、

落ち葉かきを行っていく予定です。(小島・江刺)



☆ 環境市民 活動カレンダー & おしらせ ☆

★全ての会でメンバー随時募集中！

◆環境モニター

7/8 (日) 9:30~12:00

集合場所：多摩川ワンド近くの「市民広場」

内容：多摩川ワンドの植物調べ(前回雨で中止のため再度同じ場所で行います)

持ち物：図鑑・筆記用具等

※市内の自然環境調べや「調布そぞろ歩き」のガイドを行っているグループです。

問合せ：環境政策課 042-481-7086

◆カニ山の会

7/14 (土) 10:00~12:00

集合場所：深大寺自然広場、野草園横

内容：林床整備等

※原則毎月第2土曜日にカニ山東樹林の保全活動を行っています。参加希望の方は直接集合場所へおいで下さい。

※会費500円+保険料500円(年間)

問合せ：環境政策課 042-481-7086

◆若葉町3丁目第3緑地-保全活動

7/8 (日) 10:00~12:00

集合場所：入間地域福祉センター

内容：保全活動

※原則毎月第2日曜日に活動しています。

問合せ：緑と公園課 042-481-7083

◆入間・樹林の会

7/15 (日) 9:30~12:00

集合場所：入間地域福祉センター

内容：方形枠調査・下草刈等

※原則毎月第3日曜日に活動しています。

問合せ：環境政策課 042-481-7086

◆ちょうふ環境市民懇談会・運営会議

7/9(月) 18:30~20:30

場所：調布市文化会館たづくり 301 会議室

内容：環境市民懇談会会則の改定について検討

※この運営会議にはどなたでも参加できます。

資料準備のため、事前に調布市環境政策課にご連絡下さい。(TEL:042-481-7086)

環境政策課の窓



雑木林塾を受講した方が「入間・樹林の会」や「カニ山の会」などで活動に参加しています。環境モニターも意欲のある方の参加が増えました。徐々にではありますが、調布の環境を守っていかうという輪が広がっているのを感じています。

また多摩川では「水辺の楽校」を立ち上げようと、地域の人たち、ボランティア、学校関係者などが集まって設立準備会を発足させました。川での遊びや自然観察を通じて、子どもたちの健全育成、環境学習を進めようという取り組みです。賛同していただける方、協力していただける方を募集中です。生活の中で環境を意識する場面は多くなりましたが、行動に結びつけるのはなかなか難しいことです。つい他人任せになってしまいがちですし、何かできることはないか、どこかに活動の場がないかと、考えているうちに機会を逸することも少なくないようです。しかしこのように、すでに多くの仲間がいて、それぞれ楽しみを見出しています。ぜひ入口に立ってみて下さい。(青柳聡史)

◆わたしのまちの川調査◆

7/22 (日) 10:00-12:30

集合場所：御塔坂下児童公園

内容：親子で野川の生き物を調べ

ます。主催：調布地域協議会

費用：保険料一人100円

要申込み(042-487-3087

荒木・八木) 雨天中止



6/9 カニ山東樹林の枯れ木に、真新しい穴がいくつも開いていました。キツツキのごちそうが沢山入っていたのでしょう

編集後記

「そぞろ歩き」の記事を書いたことと、近藤さんの「佐須用水」のお話で調布の水源について少し理解が深まりました。何年も調布の自然環境関連のボランティアをしているのに何も知らない自分に呆れます。一般の方はもっと知らないかもしれません。まずは知ること、知らせることから・・・(NK)

「ちょうふ環境市民懇談会」は、調布の自然環境を市民・行政・事業者の協働で保全・改善・回復していくために設立されました。2001年から保全活動の交流・支援、人材育成、情報収集・発信、提言などの活動をしています。ぜひご参加ください。

ちょうふ環境市民懇談会

連絡先:調布市環境政策課 tel 042-481-7086

E-mail: kankyau@w2.city.chofu.tokyo.jp

~調布市ホームページでカラー版がごらんいただけます~

市公式HP→くらしのガイド→環境→環境学習→自然だより